

海運の重要性を学校教育の場で ～下関市内の小学校教員を対象とした海事施設の見学会に協力～

当協会では、日本を支える海運の役割や重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

今般、九州運輸局下関海事事務所と九州海事広報協会に協力し、下関市小学校教育研究会社会科部の教員 21 名を対象とした国際物流ターミナル、造船所、大型フェリーなど下関を代表する海事産業の見学会を 8 月 1 日(木)に実施しましたので、その模様をお知らせします。

1. 長州出島「国際物流ターミナル」

最初に、社屋屋上からターミナル全景を見学しながら、生鮮食品（輸入）や電子部品（輸出）等を扱う迅速な輸送・検査体制など下関港の特徴について説明を受けました。その後、ターミナルに移動して、コンテナや荷役機器を間近で見学しました。



2. 造船所

旭洋造船の協力のもと、多様な船種を建造する同社の概要について説明を受けた後、NC 切断機による鋼板の切断作業やクレーンによるブロックの移動作業など、造船所施設を見学しました。

3. 大型フェリー

関釜フェリーの協力のもと、下関～釜山航路の概要について説明を受けた後、同社フェリー「はまゆう」の操舵室や機関室など船内を見学しました。



4. 海事産業に関する学習会・意見交換

最後に、下関市内の小学校において、当協会から海と海運の重要性や特徴等について説明し、海運が暮らしを支えていることを確認しました。また、九州海事広報協会から、今後の授業で海事産業を説明する際の資料の活用方法等について説明がありました。

参加した教員からは、「海事産業の現場を見学し、改めてその魅力と重要性を認識した。しっかりと生徒に伝えていきたい」との意見が寄せられました。

当協会では、今後もこのような繋がりを活かし、学校授業での海運の説明に活用いただくべく、活動を推進してまいります。